

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	現代の世界	
科目基礎情報						
科目番号	0034		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『明解世界史A』 (帝国書院)					
担当教員	赤崎 雄一					
到達目標						
現代史を手がかりにして、世界各地の社会・文化を理解でき、国際人として教養を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
現代世界の各地域の歴史を理解する	現代世界の各地域の歴史を理解できる		現代世界の各地域の歴史を基本的に理解できる		現代世界の各地域の歴史を理解できない	
現代世界の各地域の社会・文化を理解する	現代世界の各地域の社会・文化を理解できる		現代世界の各地域の社会・文化を基本的に理解できる		現代世界の各地域の社会・文化を理解できない	
学科の到達目標項目との関係						
A						
教育方法等						
概要	日本を含めた近現代の世界について学ぶ。					
授業の進め方・方法	プリント、視聴覚教材を利用した講義を行い、最後に授業のまとめの問題を解かせる。					
注意点	日頃から新聞、ニュースを見るようにすること。					
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	バルカン半島の緊張と第一次世界大戦		授業内容を理解できる	
		2週	ロシア革命とヴェルサイユ・ワシントン体制		授業内容を理解できる	
		3週	アジアの民族運動		授業内容を理解できる	
		4週	世界恐慌とファシズムの台頭		授業内容を理解できる	
		5週	第二次世界大戦		授業内容を理解できる	
		6週	経済不況から日中戦争へ		授業内容を理解できる	
		7週	被害の拡大と戦争の終わり		授業内容を理解できる	
		8週	これまでのまとめ		授業内容を理解できる	
	2ndQ	9週	対立する二つの陣営		授業内容を理解できる	
		10週	アジアの独立と経済発展の道		授業内容を理解できる	
		11週	第三世界と中東戦争		授業内容を理解できる	
		12週	アメリカ・ソ連の緊張と緩和		授業内容を理解できる	
		13週	社会主義国の変容と冷戦の終結		授業内容を理解できる	
		14週	グローバル化する世界と超大国アメリカ		授業内容を理解できる	
		15週	試験返却・解説		授業内容を理解できる	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前1,前5,前10
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	前4,前6,前8,前9,前14
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	前1,前7
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	前1,前7	

				それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
		グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	前2,前3,前8,前11

評価割合

	試験	発表	合計
総合評価割合	90	10	100
配点	90	10	100